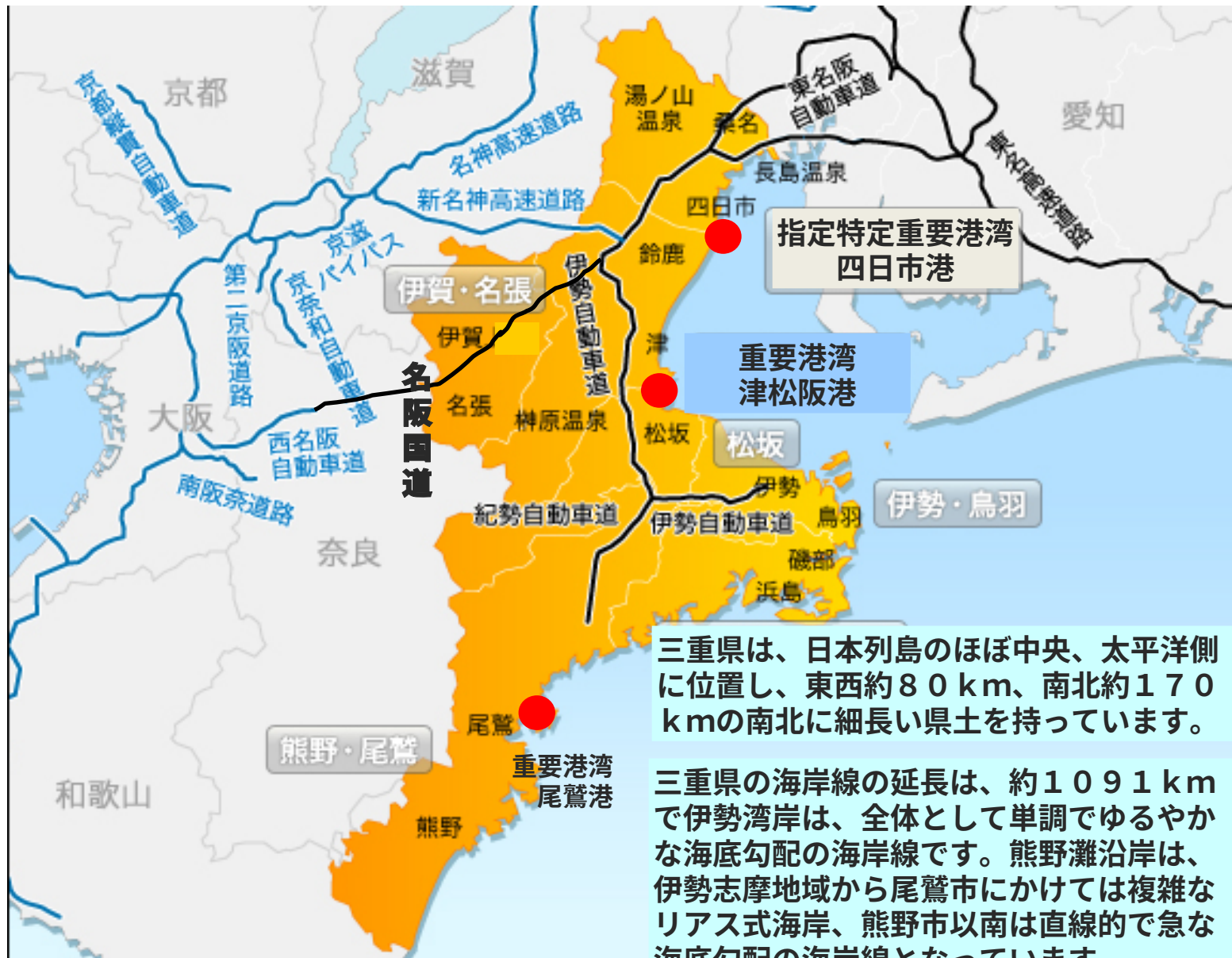


三重県の広域防災拠点に 関する検討状況

平成24年10月22日

四日市市消防本部
消防長 川北 悟司

三重県の地勢



1. 整備の状況

広域防災拠点のあり方についての三重県の方針

◇従来の三重県における広域防災拠点の配置にあたっての基本的な考え方

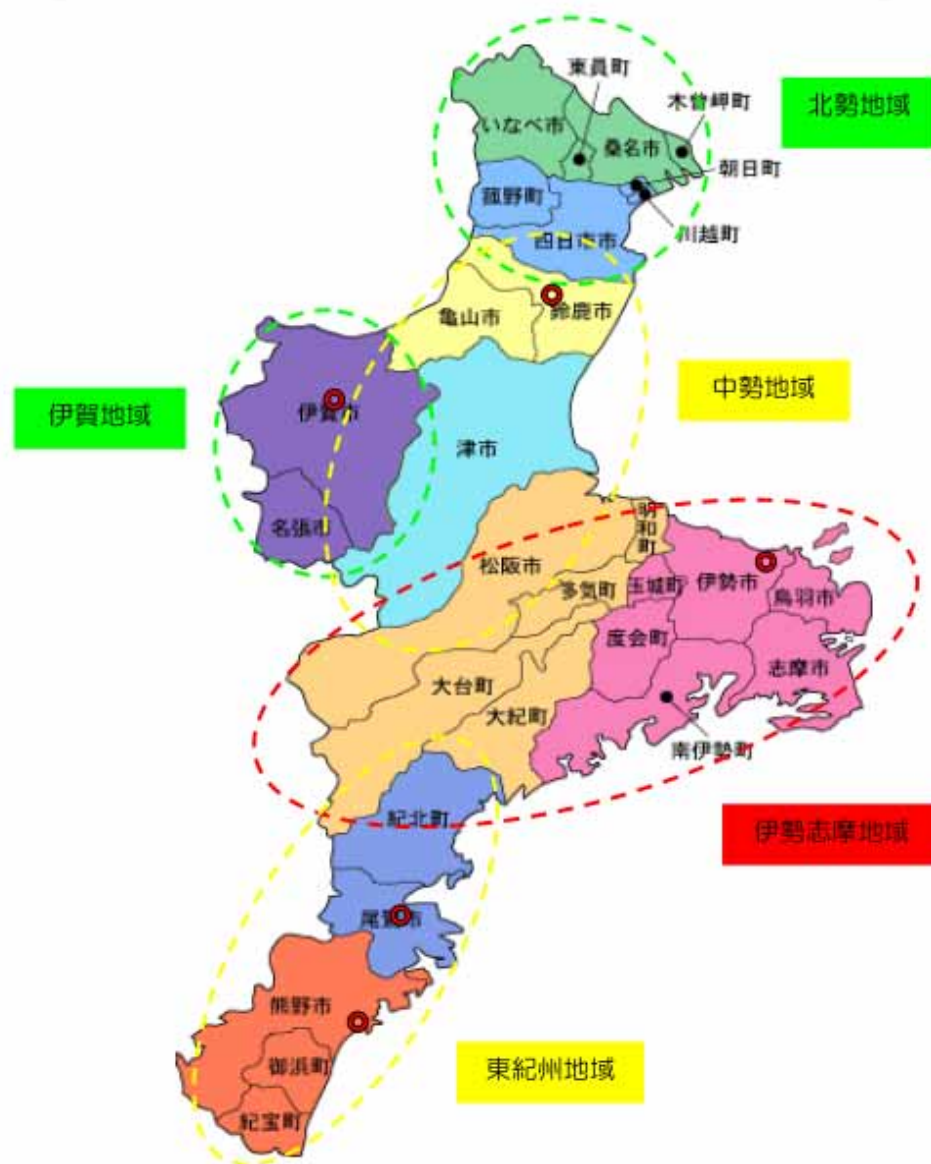
- ①平成7～8年に実施された「三重県地域防災計画被害想定調査」により設定する被災パターンに対応できること。
- ②地理的条件・気象条件等による孤立化に対応できること。
- ③災害時、ヘリコプターによって効果的に全県域をカバーできること。

◇広域防災拠点の機能

機能		概要
災害時	空輸機能	○被災地域外から被災地域内への救援物資及び要員の輸送、被災地域内から被災地域外への重症患者の搬送等のためのヘリポート
	物資集配機能	○物資の荷捌き・一時保管、駐車スペース（トラックターミナル等）
	応援要員等受入機能	○応援要員等を受け入れ、一時的な滞在スペースを提供するとともに、被災地への搬送を支援する
	情報通信機能	○災害対策活動の展開に必要な情報を集約・発信・共有化できるようにするための情報・通信設備（防災行政無線の整備）
	連絡・調整・決定機能	○現地対策本部の運営に必要な施設・スペース
平常時	保管機能	○応急復旧用資機材等を備蓄するための保管施設
	教育・訓練・啓発機能	○市町や関係機関、自主防災組織等の訓練や研修 ○県民に対する防災意識の普及啓発活動

1. 整備の状況

三重県広域防災拠点の配置とカバーエリア



拠点の名称	カバーエリア
北勢拠点 (3市5町)	桑名市、四日市市、いなべ市、 木曽岬町、朝日町、川越町、東員町、 菰野町
中勢拠点 (3市)	鈴鹿市、亀山市、津市
伊勢志摩拠点 (4市7町)	松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、 明和町、多気町、大台町、玉城町、 度会町、大紀町、南伊勢町
伊賀拠点 (2市)	伊賀市、名張市
東紀州拠点 (2市3町)	尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、 紀宝町

※三重県広域防災拠点施設基本構想調査（平成9年3月）

1. 整備の状況

【中勢拠点】鈴鹿市・亀山市・津市



- ・ 県消防学校隣接地（鈴鹿市石薬師町）に整備済
- ・ （平成10年度～平成13年度完成）
- ・ ①備蓄倉庫 鉄骨平屋建 1,398m²
- ・ ②ヘリポート 駐機場・離着陸場
(中型3機) 4,260m²
- ・ ③物資集配施設（消防学校）
荷捌き場・一時保管場・トラックヤード
- ・ ④無線設備 県防災行政無線装置（消防学校内）
- ・ ⑤発電設備 自家用発電機（消防学校、備蓄倉庫）
- ・ ⑥備蓄資機材
発電機、投光機、担架、防水シート、簡易トイレ、
毛布
- ・ 全体面積5,658m²
- ・ ※本部施設、宿泊施設は消防学校を併用し、三重県営鈴鹿スポーツガーデンを補助的施設として位置づけています。

1. 整備の状況

〔東紀州拠点（紀北拠点）〕尾鷲市・他1町



- くろしお学園尾鷲分校（尾鷲市光が丘）を活用し整備済
- （平成17年度～平成18年度完成）
- ①備蓄倉庫 校舎を利用 136m²
- ②ヘリポート 駐機場・離着陸場（中型2機）17,670m²（6,440＋11,230）
- ③物資集配施設 荷捌き場・一時保管場・トラックヤード 2,280m²
- ④無線設備 県防災行政無線装置（くろしお学園内）
- ⑤発電設備 自家用発電機（学校敷地）
- ⑥備蓄資機材 発電機、投光機、担架、防水シート、簡易トイレ
- 全体面積20,086m²

1. 整備の状況

【東紀州拠点（紀南拠点）】熊野市・他2町



- 紀南中核的交流施設整備地区内（熊野市久生屋町）に整備済
- （平成17年度～平成19年度完成）
- ①備蓄倉庫 鉄筋平屋建 495m²
- ②ヘリポート 駐機場・離着陸場（中型3機）10,260m²
- ③物資集配施設
荷捌き場・一時保管場・トラックヤード
1,525m²
- ④無線整備 県防災行政無線装置（熊野市活性化施設、備蓄倉庫内）
- ⑤発電設備 自家発電機（熊野市活性化施設、備蓄倉庫）
- ⑥備蓄資機材購入
発電機、投光機、担架、防水シート、簡易トイレ
- 全体面積12,280m²
- ※本部施設は、熊野市活性化施設を使用します。

1. 整備の状況

【伊勢志摩拠点】松阪市・伊勢市・鳥羽市・志摩市・他7町



- 三重県営サンアリーナ周辺 (伊勢市朝熊町) に整備済
- (平成20年度～平成21年度完成)
- ①備蓄倉庫 鉄骨平屋建 1,184m²
- ②ヘリポート 駐機場・離着陸場 (大型1機 中型5機) 19,315m²
- ③物資集配施設 荷捌き場・一時保管場・トラックヤード 15,233m²
- ④無線整備 県防災行政無線装置 (備蓄倉庫内)
- ⑤発電施設 自家発電機 (サンアリーナ、備蓄倉庫)
- ⑥備蓄資機材購入 発電機、投光機、担架、防水シート、簡易トイレ
- 全体面積35,732m²
- ※本部施設・宿泊施設は、県営サンアリーナを使用します。

1. 整備の状況

【伊賀拠点】伊賀市・名張市



- 三重県立上野農業高校の跡地（伊賀市荒木）に整備中
- （平成22年度～平成24年度完成予定）
- ①備蓄倉庫 校舎を利用 608m²
- ②ヘリポート 駐機場・離着陸場
（大型1機 中型3機）18,833m²
- ③物資集配施設
荷捌き場・一時保管場・トラックヤード
12,333m²
- ④無線整備 県防災行政無線装置（既存校舎内）
- ⑤自家発電施設 自家発電機（既存校舎内）
- ⑥備蓄資機材購入
発電機、投光機、担架、防水シート、簡易トイレ
- 全体面積32,382m²

2. 三重県における広域防災拠点のあり方について

三重県における広域防災拠点のあり方について

①各広域防災拠点との連携と役割の明確化

(現在の広域防災拠点の運用では)

- ・地域別の被災パターンに応じた広域防災拠点の相互支援の役割が不明確。
- ・全県被災時における県外からの応援・救援物資等の受入・活動の調整等の役割分担が不明確。

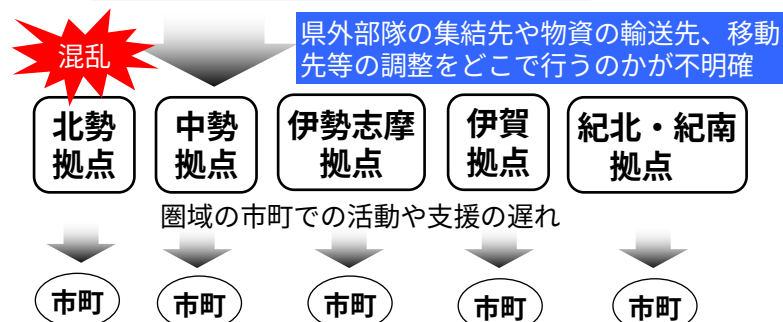
東日本大震災における遠野市の事例にみられるように、県外部隊の集結地や後方支援など、拠点ごとの役割を明確化することにより、救援・復旧等の活動を円滑に進めることが可能。

(広域防災拠点の活用例：役割の階層化)

- ・並列の位置づけにある広域防災拠点を、被災パターンを踏まえて階層化することにより、各広域防災拠点が担うべき役割を明確化。
- ・広域防災拠点の役割を階層化することにより、災害発生時の運用の円滑化や対応の迅速化につながる。

■全県被災時における広域防災拠点の運用イメージ

(現在) 全国からの応援部隊・救援物資等



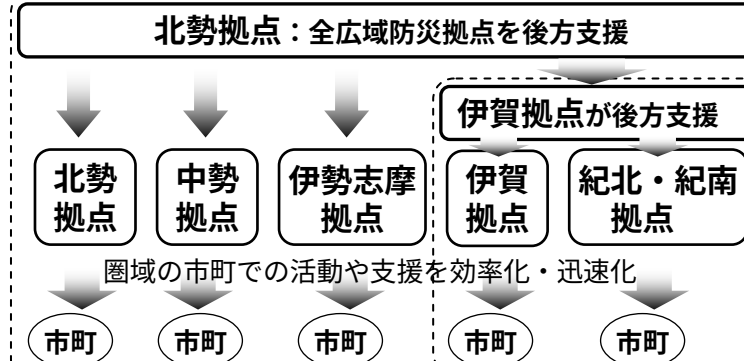
役割を階層化

(今後) 全国からの応援部隊・救援物資等

北勢拠点：全国または東日本方面からの進出

伊賀拠点：主に西日本方面からの進出

県の玄関口にあたる両拠点で部隊や物資の受入、移動先や分配先などの調整の他後方支援を実施



2. 三重県における広域防災拠点のあり方について

②各広域防災拠点の役割・機能について

1. 北勢拠点

- ◇人員、物資の拠点への輸送、活動部隊等の支援など、全県域をサポートする後方支援拠点
- ◇県外からの応援・物資等の受入、また展開する部隊への情報提供や活動・分配などの調整を行う
- ◇北勢地域における被災地への前線基地としての活動拠点

2. 中勢拠点

- ◇全県被災時に北勢拠点機能を補完
- ◇中勢地域における被災地への前線基地としての活動・搬送拠点、被災自治体への物資等の分配などの後方支援

3. 伊賀拠点

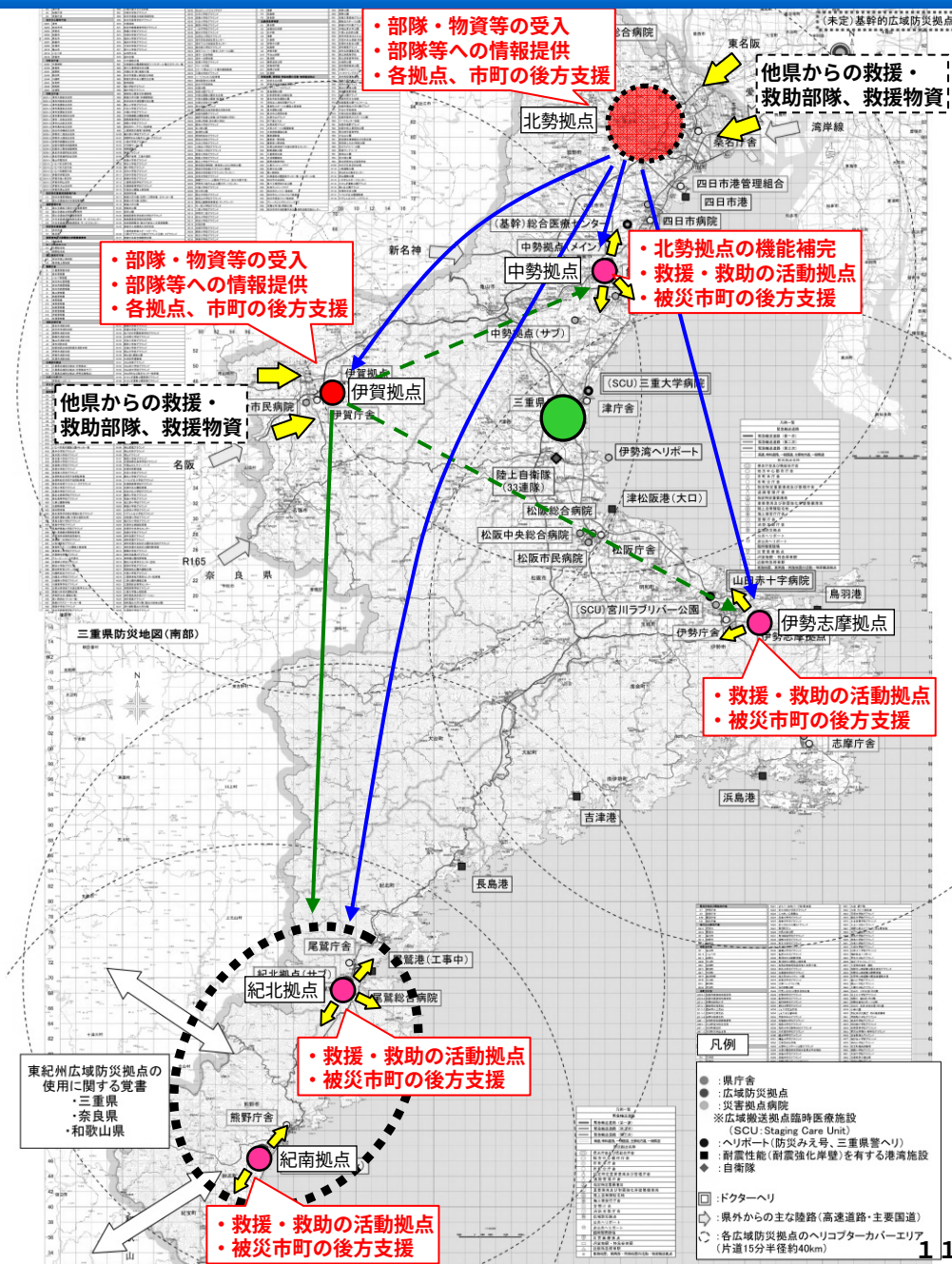
- ◇全県被災時に北勢拠点機能を補完するとともに、東紀州地域の後方支援を行う拠点
- ◇他県（主に西日本）からの応援・物資等の受入人員、物資の拠点への搬送、活動部隊等の後方支援
- ◇伊賀地域における被災地への前線基地としての活動拠点、物資等の保管や分配拠点

4. 伊勢志摩拠点

- ◇伊勢志摩地域における被災地への前線基地としての活動・搬送拠点、被災自治体への物資等の分配など後方支援

5. 紀南拠点・紀北拠点

- ◇東紀州地域における被災地への前線基地としての活動・搬送拠点、被災自治体への物資等の分配など後方支援



2. 三重県における広域防災拠点のあり方について

広域防災拠点に関する機能別の課題・運用事例

機能	紀伊半島大水害、東日本大震災を教訓とした課題
教育・訓練・啓発機能	遠野市の後方支援活動では、平常時の訓練の実施が、災害時にうまく機能した一つの理由となっており、 <u>平常時からの教育や関係機関が連携した訓練の重要性が改めて明らかとなった。</u>
保管機能	紀伊半島大水害時には、保管していた物資が、被災者への支援物資として活用された。東日本大震災では、車両・燃料不足等から救援物資の輸送に困難を来す状況も見られており、 <u>支援物資が届くまでの間、救援活動や避難所等への支援のための物資の確保が課題。</u>
情報通信機能	東日本大震災では、役場の被災などにより情報通信機能が喪失し、被災状況や避難状況の把握に時間を要し、救援活動にも支障をきたした。 そのため、 <u>災害に強い通信基盤（電力確保等を含む）整備が課題。</u>
応援要員等受入及び輸送機能	初期の情報不足の段階では、各自治体からの応援は、後方支援拠点からの応援要員の振り分け投入が効果的であったことから、これらの <u>応援要員の受入れや振り分けのできる輸送の整備が課題</u>
空輸機能	紀伊半島大水害では、ヘリコプターによる活動が有用であったが、東日本大震災では、天候不良等により、物資の輸送の多くが陸上交通によってまかなわれた実態があり、 <u>空輸機能に特化した拠点整備ではなく、陸上輸送機能も含めた拠点整備が課題。</u> また、 <u>1つの拠点で複数のヘリコプターを同時に運用するには限界があるため、ニーズに応じた運用方法が課題。</u>
物資集配機能	救援物資が、車両・燃料不足や仕分け能力不足等により滞留してしまった実態があり、 <u>救援物資等をニーズに応じた必要なタイミング・量で届けるための集配機能を有した拠点整備が課題。</u>
連絡・調整・決定機能	紀伊半島大水害では、救助機関の現地調整所が設置され、関係機関が連携して救援を行ったことから、 <u>救助機関、医療機関、物資輸送機関などの関係機関が連絡調整ができる機能が必要。</u>
燃料保管機能（追加機能）	紀伊半島大水害では、拠点での燃料補給等が可能であり、救援活動に一定の効果を果たした。一方で、東日本大震災では、燃料不足により、支援活動が滞った部分があり、 <u>救助・救援活動支援のための最低限の燃料貯蔵のできる拠点整備が課題。</u>

2. 三重県における広域防災拠点のあり方について

今後の検討課題

①燃料確保に関する課題

- ・ 車両用燃料については、既に一定量の備蓄がある消防機関等との連携や、その他常時燃料を備蓄している指定公共機関との協定なども含めた検討が必要。
- ・ 燃料については永年保存できないため、備蓄にあたっては燃料の継続的な利用について検討が必要。

②ニーズに応じた運用手法に関する課題

- ・ 三重県の広域防災拠点は一つの拠点が様々な機能を有しているが、様々な機能を同時に活用することは困難であり、災害発生後、刻々と変化する被災地のニーズや社会基盤の復旧状況に応じた運用手法が必要。
- ・ 同時期に複数のニーズへの対応が必要となる場合は、広域防災拠点以外の施設との連携を考慮する必要がある。

③地域別の特徴に応じた運用手法に関する課題

- ・ 地理的条件や被災形態、また、災害拠点病院やSCU、その他災害対応を行う関連施設の有無や、それら関連施設との連携の可能性など、各地域の特徴に応じた運用手法が必要。

広域防災拠点施設等構想検討委員会

所 属	職 名	氏 名
関西学院大学 総合政策学部	教授	室崎 益輝
BOSAI International	代表	小川雄二郎
三重大学大学院 工学研究科	准教授	川口 淳
みえ災害ボランティア支援センター	事務局長	若林千枝子
消防庁国民保護・防災部防災課	課長	山口 英樹
三重県消防長会	会長	川北 悟司
陸 上 自 衛 隊 久 居 駐 屯 地 第33普通科連隊	第3科長	竹内 啓佳
三重県警察本部	警備二課長	中谷 佳人
地 方 独 立 行 政 法 人 三重県立総合医療センター	看護師長	奥田 美香
三重県防災対策部	部長	稲垣 司

広域防災拠点施設等構想委員会

広域防災拠点施設等構想検討委員会スケジュール

種別	項目	5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
防災会議		5/28	○																				
広域防災拠点	検討委員会					7/20	○			○						○			○				
施設等構想	ワーキング																						
検討委員会	情報交換・共有	{	①広域防災拠点のあり方WG																				
			②候補地検討WG																				
	情報交換・共有	{	③広域防災拠点構想WG																				
			④総合進出拠点構想WG																				
						・大規模災害の検証 ・広域防災拠点のあり方の検討 ・総合進出拠点のあり方の検討 ・候補地検討					・広域防災拠点構想の具体的検討 ・総合進出拠点構想の具体的検討 ・資機材等備蓄計画の策定 ・管理運用計画の策定 など					・内容修正・再検討 ・とりまとめ							

① 広域防災拠点のあり方WG		② 候補地検討WG		③ 広域防災拠点構想WG		④ 総合進出拠点構想WG	
WGメンバー	○災害対策課 ○消防・保安課 ○地域医療推進課 ○施設災害対策課	WGメンバー	○消防・保安課 ○災害対策課 ○県民センター（桑名・四日市） ○各消防本部（桑名・四日市・菟野）	WGメンバー（予定）	○災害対策課 ○消防・保安課 ○地域医療推進課 ○道路企画課（施設災害対策課） ○NEXCO中日本 ○全県民センター	WGメンバー（予定）	○消防・保安課 ○災害対策課 ○消防本部 ○県民センター（桑名・四日市）
	主な検討項目 ・各広域防災拠点の具体的な役割 ・広域防災拠点の効果的な運用手法		主な検討項目 ・候補地の条件整理 ・候補地のリストアップ ・候補地の調査検討		主な検討項目 ・災害に応じた各拠点の運用方針（オペレーション） ・各拠点に必要とされる資機材 ・平常時の管理運営		主な検討項目 ・広域応援部隊の後方支援活動拠点としての運用方針 ・北勢拠点の規模・装備・資機材等